

豪華客船「ぱしふいっく びいなす」 御前崎港へ初寄港

国内最大級の豪華客船「ぱしふいっく びいなす」(全長183.4m、2万6594トン)が8月20日、御前崎港に初寄港しました。これは、本市と牧之原市の港湾関係者で組織する「御前崎港客船誘致協議会」が誘致活動し実現したものです。同協議会は、物流が中心の御前崎港に客船を誘致し、港のにぎわいを創出することを目的に平成28年9月に組織されました。会長を務める柳澤重夫市長は、「協議会を組織して3年で客船を誘致できるとは思っていなかった。交流を深め、港のにぎわい創出、地域振興につなげたい」と目を細めながら話しました。

今回「ぱしふいっく びいなす」は、横浜発着の紀州・御前

崎クルーズ(3泊4日)の一環で寄港しました。入港時は関係者が大漁旗やなぶら御前太鼓の演奏、ダンスを披露するなどして歓迎しました。

同船の乗客は471人で、会場の物産展を楽しんだほか、御前崎海水浴場や大井川鉄道、茶園のツアーにシャトルバスやレンタルサイクルを利用し出掛けました。

見送り行事では、子どもたちのダンスのほか御前崎市出身の書家横山豊蘭さんが巨大な白布に「一期一会」と力強く書き、乗客を魅了しました。出港時には、来場者が再来訪を期待し記念手ぬぐいや大漁旗を振って見送ると、乗客は紙テープを投げ応えていました。



1朝7時15分過ぎに西埠頭^{みづと}に姿を現した「ぱしふいっく びいなす」。大漁旗やなぶら御前太鼓などで盛大に出迎えた2豪華な装飾が施されている船内3客船を見たいと大勢が来場した4船上見学会には大勢が応募5絵日記とインスタグラムのコンテストも実施678再会、再寄港を願い手ぬぐいを振って見送る来場者

